令和７年度事業所防災リーダー優良企業に認定された５社に学ぶ

従業員や利用客を守るための 防災の取り組み

「事業所防災リーダー」は、発災時に従業員や利用客を守り、一斉帰宅抑制の呼びかけを徹底します。そのため、平時から情報収集に取り組み事業所の防災の旗振り役を担っています。ここでは大規模事業所部門 3 社、中小規模事業社２社（計５社）の取り組みを１社ずつ紹介します。

東京都事業所防災リーダー優良企業

中小規模事業所部門

八丈ビューホテル 株式会社

八丈島で宿泊業を営む同社は、2019 年の台風被害を契機に離島特有の孤立リスクを前提とした防災体制へ転換し、バリアフリー化やエネルギー自立化を推進。宿泊客と島民の命を守る持続的な災害対策に取り組んでいます。

事業所防災リーダー

取締役支配人 宮代昌秀さん

離島特有のリスクを前提にして補助を活用し防災体制を再構築

八丈島で宿泊業を営む当ホテルが、防災対策を本格的に見直すきっかけとなったのは、2019年の台風被害でした。停電や断水、物流の停止が同時に起こり、復旧まで期間を要したことから、災害発生後に外部支援を待つ前提ではなく、宿泊客やスタッフ、地域の安全を守るために、防災体制を切り替える判断をしました。

具体的には、東京都や財団の補助事業を活用し、高齢者や要配慮者の避難生活を想定したバリアフリー化を推進。同時に、災害による停電や断水に備え、電力発電や蓄電池、井戸水を温水化する太陽熱システムを整備。平時のホテル運営に組み込むことで、災害時にも無理なく機能する体制としました。現在は八丈町と災害時協定を結び、二次避難所としての役割も担っています。

避難者ゼロ方針と発電システムによる自立体制を確立

大型台風の際には、当ホテルは早期離島勧告や新規予約の制限を行い、宿泊客の滞在をゼロにすることを優先。

ホテル内の電力や電気自動車にも活用している太陽光パネル。その他にも独自井戸水や隣接する敷地内の太陽熱システムにより昨秋の断水時には延べ１万 1344 人の島民への入浴支援を実現する助けになった。

一方で、移動困難な宿泊客や島内の要避難者の受け皿となる体制を整えています。

安否確認や情報共有については、日常業務で使用しているツールをそのまま活用。業務連絡アプリのアンケート機能を用い、本人や家族の安否、出社可否などを即時に把握できる仕組みとしました。昨年、台風による停電が発生した際には、ドローンで撮影した建物や周辺道路の状況をスタッフ間で共有し、移動や復旧作業の判断に役立てました。

また、地域にも必要な有益な情報は社内共有に留めることなく、多くの島内外の人脈と情報網をもつ防災リーダーである支配人が、あえて個人アカウントのFacebookやXで発信。より多くの人に災害情報などが届くようにしています。

備蓄は5日分を目安に、水・食料・簡易トイレを分散保管しています。電力については、太陽光発電と蓄電池に加え、電気自動車を非常用電源として活用できる仕組み（V2B）を導入しました。平時はカーシェアとして運用し、有事には「動く蓄電池」となります。年1回は商用電源を遮断した訓練を行い、切り替え手順や給電の優先順位を確認しています。

今後の課題は通信手段の確保です。基地局が停電で停止した経験を踏まえ、衛星通信の導入も検討しています。

V2B（Vehicle to Building）充電ステーションを５基設置。有事には「動く蓄電池」として建物へ給電を行うことができる仕組みに。